

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立桜町高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室主事、副校長1名（書記兼務） 計2名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、教務主任、（書記・生活指導主任） 計4名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）

世田谷区立三宿中学校夜間学級副校長、世田谷区教育委員会適応指導教室相談員、玉川警察署少年第一係長、専門学校広報本部本部長、地域商店街振興組合副理事長 計5名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催

第1回 令和7年 6月20日（金）内部委員4名、協議委員1名

（欠席・世田谷区教育委員会適応指導教室相談員、玉川警察署少年第一係長、専門学校広報本部本部長、地域商店街振興組合副理事長）

委員委嘱（協議委員名簿・内部委員名簿）、令和6年度学校経営報告、令和7年度学校経営計画、本校の現況報告、意見交換、意見聴取、他

第2回 令和7年11月21日（金）内部委員4名、協議委員3名

（欠席・世田谷区教育委員会適応指導教室相談員、玉川警察署少年第一係長）

本校の現況報告、令和7年度学校評価アンケート（学運協委員・教職員・生徒・保護者、4種）について、説明、配布、回収、意見交換、意見聴取、他

第3回 令和8年 2月13日（金）内部委員4名、協議委員3名

（欠席・専門学校広報本部本部長）

本校の現況報告、令和7年度学校評価アンケート結果、令和7年度学校評価のまとめ、説明、質疑、「学校が良くなったかどうか」についてのアンケート配布、回収、意見交換、意見聴取、次年度に向けた桜町定の取組み、他

(2) 評価委員会の開催

第1回 令和7年 6月20日（金）内部委員4名、協議委員1名、欠席委員へは後日資料送付、

第2回 令和7年11月21日（金）内部委員4名、協議委員3名、欠席委員へは後日資料送付、昨年度実施の問題点・改善点、今年度の学校評価の実施に向けた検討

学校評価アンケートの作成・検討、調査方法、方法確認、結果の分析・検討、報告について

第3回 令和8年 2月13日（金）内部委員4名、協議委員4名、欠席委員へは後日資料送付、令和7年度学校評価のまとめの主な点の説明、結果発表、次年度に向けた改善点、事務連絡

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

令和7年11月後半に生徒・保護者・教職員・地域関係者に実施した。

- ・11月 全校生徒 対象：21人 回収：21人 回収率：100.0%
- ・11月 保護者全員 対象：21人 回収：14人 回収率：58.3%
- ・11月 協議委員 対象：5人 回収：4人 回収率：80.0%
- ・11月 教職員 対象：8人 回収：8人 回収率：100.0%

(3) 主な評価項目

- ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備・いじめ・学校対応などの評価項目を集約し、学校実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）

アンケートの集計より、評価が低い項目や気になる質問に絞り、改善点をさぐる。

【学運協協議委員の集計より】評価のほとんどがA、Bのどちらかで、C、Dは無かった。学校に対して非常に好意的に評価を頂いていると感じる。近年はこの傾向が続いている。協議委員からも常に平均以上の評価を頂き、定着していると受け止める。今年度はBの回答が少ない。主な項目を記してみる。

4本校での生活が生徒にとって有益なものであると思いますか。9生活指導に当たって、保護者との連携が図られていると思いますか。11進路指導は、指導方針が明確に示され、保護者との連携が図られていますか。桜町高校定時制の閉課程は影響が大きい。不登校傾向の生徒は年々、増加している。交通安全教室での講師派遣は継続的に実施している。さくら祭りやねぶた祭りでは、連携や協力体制がある。学校の施設・設備は老朽化が目立つ。トイレを中心に改修を実施している。生徒も減り活気ある学校生活が課題である。

【教員の集計より】日常的に生徒との関わりを基に生徒理解を進めており、ここ数年生徒との関係は良好と

捉えている。生徒に対して個別対応を軸に面談や声掛けを中心に試みている。教員評価の低い項目を挙げてみる。[4]生徒にとって本校の生活が充実し、自分の将来にとって有益であると感じていますか。[14]部活動や生徒会活動が活発ですか。[14]部活動や生徒会活動が活発ですか。[15]ホームルーム活動は活発でクラス全体で関わられるよう指導していますか。令和7年度は4学年揃う最後の年となってしまった。これから学年や在籍数が減る中、活気ある学校生活をどう継続して行くか、生徒の心に残る体験や思い出を残せる活動を、全生徒と作って行きたいと感ずる。

【保護者の集計より】毎年全家庭の保護者を対象として保護者へアンケート用紙を配布し貴重なご意見を伺っている。1年生に成人の生徒が入学し、生徒も学校へも影響が大きい。昨年度より全項目の回答に、C評価の回答が増えた。評価的には下がるが、学校や子供への関心が伺え、期待と捉え今後の教育の向上につなげていきたい。近年の傾向だが、家庭での様子と学校での生活態度に乖離があるやに見える。今まで以上に家庭との連携を重視し、家庭を巻き込み学校生活を充実したものとしていきたい。授業公開や他の行事を広く広報し参加を促して、活気へ繋げて欲しいと感ずる。多感な時期とは思いますが、家庭で学校での日常的な出来事が話題となることを目指したい。

【生徒の集計より】生徒へのアンケート結果は、AからDまでまんべんなく評価が付く。これをどう捉えるか、良き改善に繋げたい。生徒の回答で、特に評価の低い項目を挙げてみる。

[2]日常の学校生活に、生徒の意見や要望が取り入れられていると思いますか。[12]本校では働くことに関する適切な意識を育てるような指導がされていると思いますか。[14]本校の行事や部活動は活発で、楽しいと思いますか。ここ数年は生徒数が横ばいで増えず、閉課程が決まってからは明らかに活気が無くなって来ている。次の令和8年度には2年生から4年生までしか居なくなる。令和9年度には3年生と4年生しか居なくなる。残り3年間、在籍する生徒には、本人に取って社会に出る前の、素晴らしい体感をする時間として欲しい。高等学校の卒業資格取得を目指すも良し、基礎・基本の徹底による小・中学校の復習が主も良し、本校ならではの視点を生かし、高校生活を満喫して欲しいと感ずる日々である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

基礎・基本の徹底により、授業の充実と定着を図る。家庭との連携も継続課題である。多様な生徒に対して適切な指導を行い、教育活動を丁寧に行い、一人も取りこぼさない教育の実現に取り組む。

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・来年度の課題；基礎・基本の徹底を図り、授業進度を緩め丁寧な授業実施の必要性を確認。
- ・生徒自身よりたくさん話を引き出し、意見を言わせることが肝要で、褒めることが大切である。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・今年度の成果：生徒・保護者・教職員が学校施設の老朽化を感じていることが明確となった。
- ・生徒の家庭での様子と学校での生活態度に乖離がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・学校行事への参加促進を図る。学校側より生徒への声掛け・保護者への連携強化を図る。

(2) 学習指導

- ・基礎基本の徹底を図った授業充実、及び生徒欠席の際の授業内容の資料配布を充実させる。

(3) 特別活動

- ・日常の放課後部活動を限定した人員確保と、複数顧問配置による活動にての実践を図る。

(4) 生活指導

- ・日常の出欠指導を丁寧に行い、日々の生徒本人への声掛け、家庭との連携を実行していく。

(5) 進路指導

- ・本人と保護者と学校の三者が連携した意思確認、本人希望の進路実現を目指す指導を行う。

(6) 健康・安全

- ・基本的生活習慣の定着を図る。自転車通学者の交通ルールへの順守と、ヘルメット着用を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 (1) 協議委員人数 5人 回答4人

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
2	1					1

7 その他

- 閉課程が年次更新し生徒の入学も減るが、同時に教職員の定数配置も減る。東京都教育委員会や学校経営支援センターとも相談や要望し、人材を確保する手立てを探っていく。